



<会話の中心>

「家族全員揃っている」夕食でも、「誰かが欠けている」場合でも、主婦の4割以上が会話の中心

「家族全員揃っている」夕食の会話の中心は、「自分自身(主婦)」が44.5%と最も多く、次いで「子供」が31.8%、「配偶者(夫)」が15.1%である。(グラフ)

「家族の誰かが欠けている」場合の夕食の会話の中心は、「子供」が47.2%と最も多く、次いで「自分自身」が43.4%、「配偶者(夫)」が3.1%であった。(グラフ)

「小学生」の子供がいるステージでは、

家族全員揃っているときも、欠けているときも会話の中心は子供

「家族全員揃っている」夕食の会話の中心をライフステージ別でみると、「子供なし」や「子供が独立」しているステージでは「自分自身」が6割以上。「学校卒業以上」の子供がいるステージでは「自分自身」が5割を超え、全体よりも5%以上高い。「小学生未満」の子供がいるステージでは「子供」と「自分自身」が同割合。「小学生」「中学生」の子供がいるステージでは「自分自身」よりも「子供」の割合が高く、特に小学生では約6割と他よりも高い。(グラフ)

「家族の誰かが欠けている」夕食のライフステージ別では、「小学生」の子供がいる人の場合は、「子供」が6割を超え、他のステージよりも10%以上高い。「大学生以上の学生」「学校卒業以上」の子供がいるステージでは、「自分自身」が約6割と他に比べて高い。(グラフ)

<家族にとってどのような場であるか>

夕食時は「楽しい話をする場」「諸々の連絡・情報共有の場」

家族にとって夕食時はどのような場であるかを複数回答で聞いてみると、「楽しい会話をする場」が79.6%で最も多く、僅差で「諸々の連絡・情報共有の場」が76.6%、「しつけの場」「愚痴を言える場」「家族会議の場」は2~3割程度である。

ライフステージ別でみると、「子供なし」や「小学生未満」「小学生」の子供がいるステージでは、「楽しい会話をする場」が8割以上と高く、各ステージで第1位の項目であるが、「子供が独立」しているステージでは、64.8%と全体よりも10%以上低く、一方で「食事」以外にはない・わからない」が1割を占めている。

「諸々の連絡・情報共有の場」は、いずれのステージでも7割以上。中学生以上の子供がいるステージでは、「楽しい話をする場」を抜いて第1位となった。「子供なし」の夫婦にとっては「愚痴を言える場」「家族会議の場」「悩みを相談する場」が全体より5%以上高い(グラフ)。

リビング新聞ネットワーク 女性のための生活情報紙「リビング新聞」は、仙台から鹿児島までの60エリアで908万部発行され、エリアごと地域に密着した情報収集と発信を行っています。2006年度~2007年度は「わが家ごはん・地元ごはん・ニッポンのごはん」キャンペーンを全国で実施。地産地消、食育などについてのデータは下記サイトでもご覧いただけます。

ウェブサイト <http://wagaya-gohan.jp/>

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

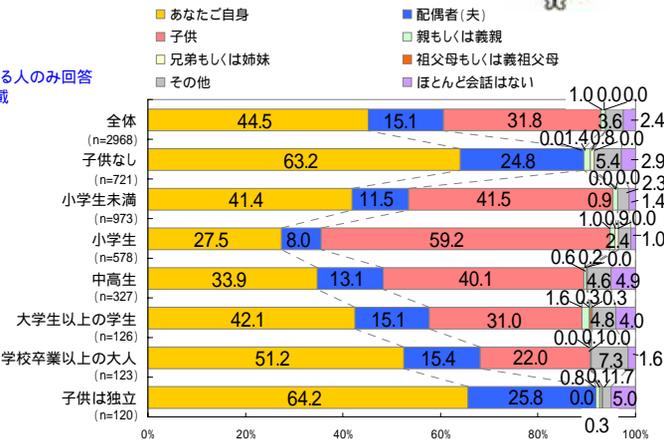
問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

グラフ

夕食での会話の中心

<家族全員揃っている夕食>

家族全員が揃う夕食が週1日以上ある人のみ回答
「わからない・覚えていない」は未掲載



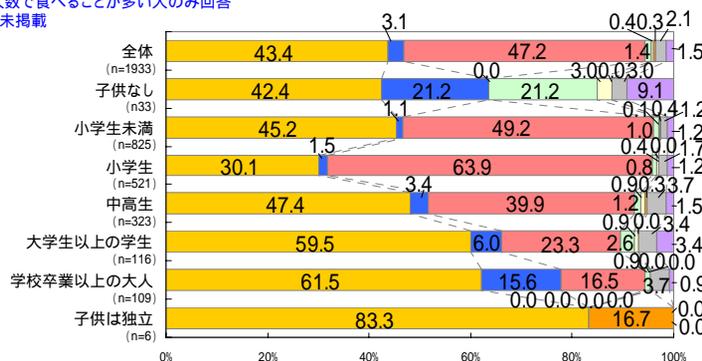
グラフ

夕食での会話の中心

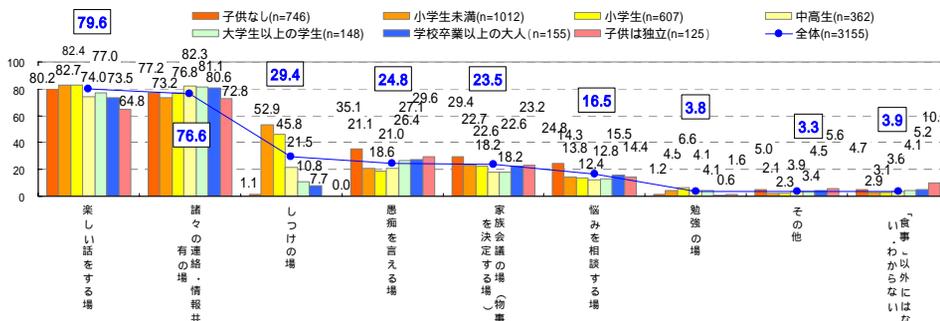
<家族の誰かが欠けている夕食>

家族が欠けているときも複数人数で食べることが多い人のみ回答
「わからない・覚えていない」は未掲載

参考値



グラフ 家族にとってどのような場であるか(複数回答)





<夕食時の会話内容>

夕食時の会話の内容のトップ3は、「その日の家族の出来事」「仕事や学校」「世間のニュース」

夕食時の会話の内容を聞いたところ、「その日の家族の出来事」が84.6%と最も多く、次いで「仕事や学校について」が67.3%、「世間のニュース」「見ているテレビの番組」「今後の予定」が5割以上となった。また、「献立内容」や「料理・調理」など食事内容に関する話題は2~3割台。

小学生以下の子供がいるステージでは「その日の家族の出来事」がメイン、
中学生以上ではニュースやテレビなど、高いステージでは、健康状況や近所・親戚の話題も

ライフステージ別でみると、「子供なし」では、「世間のニュース」「見ているテレビ番組」「今後の予定」「体調や健康状況」「スポーツ・芸能」などが全体よりも5%以上高い。一方「小学生未満」「小学生」の子供がいるステージでは、「その日の家族の出来事」が約9割と非常に高く、「食事マナー・食べ方」も5割を超えるが、ニュースやエンターテインメントなどは他よりも低い。また、「小学生」「中学生」の子供がいるステージでは「仕事や学校」が8割以上と高く、中学生以上になるとニュースやテレビ、エンターテインメントの割合が高くなる。「学校卒業以上」や「独立した子供」がいるステージでは、「体調や健康状況」のほか、「近所の出来事」「旬の食べ物」「親戚の話題」「飼っているペット」などが全体よりも5%以上高い。(グラフ)

家族全員の夕食では話題は多岐にわたり、夫不在の夕食では子供の学校(園)生活が中心に

「家族全員揃っている」夕食と「誰かが欠けている」夕食で、会話の内容の違いがあるかでは、「ほとんど話の内容は変わらない」が49.2%と約半数。「話の内容は違うことが多い」は19.7%。(グラフ /左) ライフステージ別の「違うことが多い」と答えた人の割合は、小学生未満の子供がいるステージで1/3、小学生~学校卒業以上の子供がいるステージでは約2割であった(グラフ /右)。

話の内容が違う人に具体的な違いをフリーアンサーで聞いてみると、「夫がいる場合、いない場合」の違いが多くみられる。夫がいるときは、休日のレジャー予定や、ニュース、テレビなど、比較的多くの話題が出ているが、夫が不在の場合は、子供の学校(幼稚園)の話題に中心が移るといった記述もみられる。

また、子供が「小学生未満」の場合、親からのしつけに関する話が多くなりがちで、「小学生」くらいになると学校や習い事について子供の方から豊富な話題が提供されているようだ。中学生以上になると、「父親の前で話すこと、話さないこと、なども出てきており、ライフステージによって、会話の状況には様々な違いがみられる。

<回答者プロフィール>

年代:20代以下 9.0%、30代 45.6%、40代 31.5%、50代 10.8%、60代以上3.1%、平均年齢39.8歳。 就業形態:専業主婦 64.8%、パート・アルバイト19.6%、フルタイム11.1%、その他(自営・在宅など含む)4.5%。

<調査実施> リビング新聞ネットワーク / アイ・マーケティングアドバンス株式会社

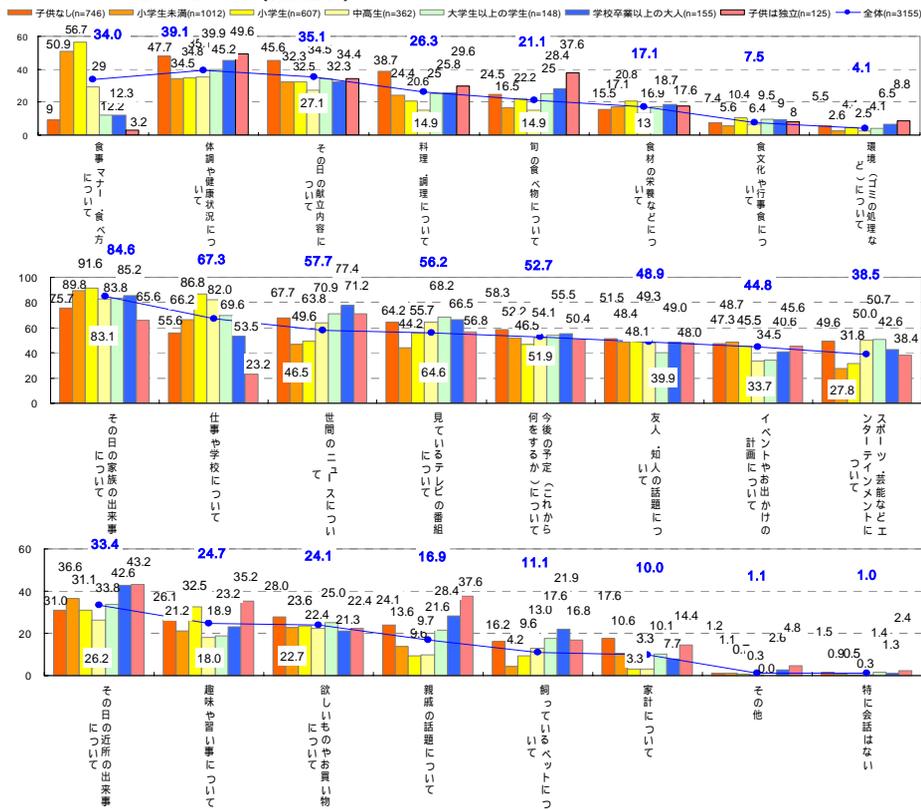
リビング新聞ネットワーク 女性のための生活情報紙「リビング新聞」は、仙台から鹿児島までの60エリアで908万部発行され、エリアごと地域に密着した情報収集と発信を行っています。2006年度~2007年度は「わが家ごはん・地元ごはん・ニッポンのごはん」キャンペーンを全国で実施。地産地消、食育などについてのデータは下記サイトでもご覧いただけます。

ウェブサイト <http://wagaya-gohan.jp/>

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp> お問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430

グラフ 夕食時の会話内容(複数回答)



グラフ 「家族全員揃っている」夕食と「誰かが欠けている」夕食で、会話の内容の違いはあるのか?

